

# ねいの里 ホオホオニュース



## ◆ 「ロシア沿海地方との渡り鳥に関する共同調査」について 間宮 寿頼

今年、ロシアから青少年3名を含む9人の渡り鳥の共同調査団が来県しました。

皆様、この共同調査が始まり何年になるか、ご存知ですか？実は今年で、11年目を迎えます。当塾長の湯浅純孝氏（自然博物館ねいの里館長）が、富山県庁職員でおられたときに起案され、事業が始まっており、県の事業として共同調査が取り組まれてきました。今年度より、日本鳥類保護連盟富山県支部が事業の継続の主体となり取り組むと共に、自然博物館ねいの里も調査の継続に寄与しております。

この共同調査が始まったきっかけは、渡り鳥の繁殖地並びに移動コースであると考えられるロシア沿海地方で、標識調査が行われていないことでした。そこで、富山県からロシア側調査員に対し技術指導と調査資材援助を行うことで、渡り鳥の移動経路、特に幻の渡りルートと言われる「日本海ダイレクトルート」の実態の解明を目指し、寿命、繁殖開始年齢などのデータを集めることを主な目的とし調査が実施されてきました。渡り鳥の「渡り」の実態は、少しずつ解明されてきていますが、ツグミやカシラダカなどの小鳥類に関しては、いまだ分からないところが多いのが実情です。しかし、この10年間の調査で、表1のように冬鳥が日本海をダイレクトに渡っていると思われる貴重な事例が確認されています。今後の調査の継続により、多くの科学的なデータの蓄積が期待されています。



また、この共同調査の何より素晴らしい点は、研究や研究者の交流だけでなく、次世代を担う青少年の国際交流も行われていることです。今回の共同調査で日本側が9人、ロシア側12人と多くの青少年が相手国を訪れ、交流が行われています。最初に日本側から共同調査団としてロシアを訪れた当時の中学生は今、自然系の講座を学ぶ大学生となっています。まさに渡り鳥はロシアと日本（富山県）の人を結び、人を育てる存在です。渡り鳥は繁殖地（ロシア）と越冬地（日本）である国境の枠を超えるため、たがいの自然環境の保全が必要であります。

表1

貴重な記録			
	種名	放鳥場所と日時	回収場所と日時
①	カシラダカ(オス)	婦中鳥類観測ステーション 平成12年10月31日	ロシア沿海州地方調査地 平成13年10月14日
②	ジョウビタキ(メス)	ロシア沿海州地方調査地 平成13年10月10日	愛知県北設楽郡設楽町 平成15年1月5日
③	ジョウビタキ(オス)	東京都あきる野市 平成17年11月19日	ロシア沿海州地方調査地 平成18年10月17日

両国の自然環境を学ぶ青少年は渡り鳥のように進むべき方向を間違えることなく、目的にたどり着くのではないのでしょうか？  
今後も渡り鳥の共同調査や両国の青少年の国際交流が継続されるよう期待したいものです。

## 活動をふりかえり

### ◆ 新緑を歩く

5月4日は塾の会行事で「新緑の自然を訪ねて」をテーマに「ねいの里」周辺約7kmの森の観察会を行いました。当日は子供から大人まで、約40名の参加者があり、ウワミズザクラやヤブデマリ又道路沿いのキンポウゲやムラサキサギゴケなどが満開で、新緑の道を楽しみました。

### ◆ 生き物との共生セミナーと水辺のビオトープ作りに参加して（6月7日）

ねいの里でモリアオガエルとウシガエルのちがいを学びました。ウシガエルはゆびにきゅうばんがなく、先がとんがっていて、モリアオガエルのゆびにはきゅうばんがありました。そのゆびで木にのぼり、ソフトボールくらいのアワのすをつくって、たまごをうむそうです。ほんものにさわってびっくりしました。（役川巧真 小4）

今年自然塾に入会し、初めて定例会に参加しました。小2の息子と4歳の娘はとにかく大喜び！カナヘビ、コオイムシ、シマヘビ、モリアオガエル、ウシガエル、ヤマアカガエル、ウシガエルのオタマジャクシ、モノサシトンボ・・・次々登場する生き物たち。おっかなびっくりさわったり、手の中に「生命」を感じたりした体験は、バーチャル化した世の中だからこそ人間として忘れてはならない感性を育ててくれるように思いました。又、その場でナチュラリストの方に名前や生態を教えていただけることが、何よりも心に残ります。外来種のキショウブ除去、竹筒の灯籠づくりも大変有意義で貴重な体験となりました。次回も楽しみです。（役川 秀行）



## 里っこ山っこにつっこ

「私のジュニアナチュラリスト活動」

ジュニアナチュラリスト 西尾 梓 さん



私がジュニアナチュラリストになってから、早5年になろうとしています。今、振り返ってみると、当時は何も知りませんでした。生き物の暮らし方、どんなものを食べているのか、こんな生きものまでいるのか！と驚いたものです。モリアオガエルが泡から生まれてくることに、本当に驚きました。木に登るカエルを見たことがなかったからです。



こんな私ですが、いろんな活動に参加し、たくさんを学びました。アサギマダラにマーキングし、それが石川県で発見された事、又、ステーションに泊ってバンディングの経験など、たくさんの動物たちと触れ合うことができました。なかでも、一番大きな活動は、ロシアへ行ったことです。広大な土地に、日本では見られないような動植物たち。その中で暮らす人たちは、みんなやさしくて、親切な人ばかりでした。捕まえたコノハズクを持たせてくれたり、一緒に鳥の回収に行こうと誘ってくれたり。日本との違いに圧倒された私はただ驚くばかりでした。

ジュニアナチュラリストになって考えたのは、「生き物が人と人とのつながりを作ってくれている」ということです。ロシアとの交流や大人との意見を交換するということは、自分自身を成長させてくれることだとおもいます。これから私は、生き物と触れ合っ、活動の幅を広げていきたいです。



# 自然塾の会

(ねいの里ホームページで活動紹介しています。)

毎月第1土曜日が活動日です。

塾の会活動日のうち、ねいの里との共催行事には参加予約が必要です。

お気軽にねいの里へお越しください！ (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)

昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんで食べましょう。

7月5日(土)	8月2日(土) 9月6日(土)
○ 午前10時～ ハッチョウトンボと昆虫ウォッチング 講師の解説を聞きながら、ハッチョウトンボ及び園内の昆虫ウォッチングを行います。	○ 午前10時～ ナチュラリストと一緒に自然散策 当日のナチュラリストと一緒に自然観察を行います。
参加者/定員なし	参加者/定員なし

## ～ねいの里行事予定 案内～

行事は変更になる事がありますので、ホームページ又は事前に電話にて確認して下さい

- 中秋の名月とクツワムシを愛でる  
9月14日(日) 18:30～20:00【ねいの里】  
(参加自由 小雨決行)

- 特別展示  
7月18日～8月31日 県内のカブト・クワガタ・淡水魚展  
8月1日～8月31日 自然保護協会環境写真展  
9月1日～10月22日 ねいの里キノコ写真展

### ■ お願い ■

- 20年度の会員継続手続きをお願いしています。まだ手続きをされていない方は「ねいの里」までお願いします。
- 会員の駐車場利用について  
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、休祭日の「いこいの村」駐車場利用料金が無料となっています。会員の方が駐車される場合は、ナチュラリスト駐車場の利用をお願いします。
- メールでの自然塾の会情報ご希望の方  
メールで「自然塾の会」の案内をご希望の方は、下記の「ねいの里」メールアドレスにご連絡をお願いします。(現在登録済みの方は必要ありません)
- ジュニアナチュラリストの皆さんへ  
まもなく夏休み、ねいの里も多くの生き物が活動する季節です、生き物好きのみなさんが来るのを待っています。(9月7日は 有峰でのアキマダ等の調査会を計画しています、是非参加の予約をして下さい)

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内

Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp

ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

# ふくろう通信

第10号  
2008年7月05日  
生き物ふれあい自然塾



今日のふくろう先生

木村 美智子さん (ナチュラリスト)

## 「毎日が発見です」

こんにちは6月から「ねいの里」に勤務している木村です。5月まで狭いビルの中で、窒息しそうになりながら仕事をしていました。今は、窓から自然をながめながら、よそ見・よそ聞きも大事な仕事の一部ということで、なんともありがたい職場です。

救護されてきたゴイサギの雛、福光から運ばれてきたスズメの雛、背中に卵をいっぱい乗せたコオイムシのお父さん。私にとっては、毎日が発見です。「ねいの里」では、2年前からビオトープ作りの一環として、県産クツワムシの保護に取り組んでいます。6月12日、私はここで飼育されたクツワムシの幼生を展示館のまわりの林に放しました。もちろん初めての体験です。50年以上も前に兄達と夜クツワムシを捕りに行ったことはありますが。

自然の中でたくましく育って、秋にはガチャガチャと鳴き声を聞かせてほしいものです。「ねいの里」で、クツワムシを愛でる観察会が計画されています。みなさん、当日はぜひ、ガチャガチャを聞きにきてくださいね。待っています。



平成20年9月14日(日) 18:30～20:00

観察会「中秋の名月とクツワムシを愛でる」

## 自然情報

コオイムシ	ノハナショウブ	アカショウビン
富山県の絶滅危惧種に指定されているコオイムシが「ねいの里」の池で増殖している事が確認されました。	ハナショウブの原種、6月末には、満開になりました。増殖が難しい野生種です。	6月に展示館前に、綺麗なさえぐりを聞かせてくれました。この写真は館員の山田一昭さんが撮影しました。